

《担当者名》准教授 / 伊藤 邦彦 准教授 / 小田 雅子 講師 / 久保 儀忠

【概要】

製剤やDDS、薬物相互作用に関する最近の文献を抄読し、医薬品開発における薬物体内動態解析の重要性について理解を深める。

【学修目標】

- ・生物学的製剤(ワクチン、トキソイドなど)の開発に関する最近の文献を抄読し、その臨床的重要性と今後の動向について知識を広める。
- ・先端的DDS製剤の開発に関する最近の文献を抄読し、その特性や今後の新規DDS製剤の開発の可能性について応用的知識を修得する。
- ・薬物動態学的相互作用に関する最近の文献を抄読し、臨床上的問題点とその回避に向けた対処法について応用的知識を学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 5	製剤設計	・生物学的製剤(ワクチン、トキソイド)について説明できる。 ・生物学的利用能を向上させるための製剤工夫について説明できる。	久保 儀忠
6 ) 10	先端的ドラッグデリバリーシステム	・標的指向型DDSについて説明できる。 ・遺伝子デリバリーについて説明できる。 ・DDSの最新技術を概説できる。	伊藤 邦彦
11 ) 15	薬物動態学的相互作用 変動要因	・薬物動態学的相互作用の実例を列举し、説明できる。 ・薬物動態における様々な変動要因について列举し、説明できる。	小田 雅子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度(30%)、課題レポート(70%)

【教科書】

各講義ごとに、資料を配付する。

【参考書】

図解薬剤学(南山堂)

臨床製剤学(南江堂)

Applied 臨床薬物動態学(京都廣川書店)

【学修の準備】

関連する分野の基本的な知識を復習しておくこと。